

Innovation Times

# SDGs 横浜の挑戦

Vol.17

企画・制作＝神奈川新聞社 企画推進室



ピアラインを走る、水素を燃料とする燃料電池バス＝ハンマーヘッド(左)東京湾大感謝祭に登場した「ミドリムシバイオ燃料バス」

水素と「ミドリムシ」と。環とみらい21(M21)地区にお  
境にやさしい次世代の燃料を 目見えし、SDGs未来都市  
使った各種のバスが、みな 横浜をアピールしている。

## とシ 素リ ミド M 地区にお目見え

次世代燃料使ったバス

新港ふ頭と大さん橋、桜木  
町駅などを結ぶ新しい市営バ  
ス路線「ピアライン」で1台

水素は、ENEOS横浜南  
水素ステーション(JXTG  
エネルギーが設置)で充填す  
る。6年間のリース契約。  
一方、東京湾大感謝祭(10  
月26、27日)に登場したのは、  
いすゞとユグレナ社の共同  
研究による「ミドリムシバイ  
オ燃料バス」。両日で計8便、  
赤レンガ倉庫発着で、みなと  
みらいを周遊した。  
微細藻類ミドリムシは、C  
O<sub>2</sub>を吸収して成長する過程で  
油を作り出す。この油から精  
製された燃料は、次世代バイ

同感謝祭では、市温暖化対  
策統括本部も環境科学研究所  
とともにブース出展。横浜市  
立大学の料理部員らが横浜産  
ワカメを使ったあえ物を、試  
食として来場者にふるまっ  
た。(春名 義弘)

同セミは来年3月まで月1  
回のペースで開く予定。  
(春名 義弘)

運行されているのは、水素を  
燃料とする燃料電池(FCE)  
バス「SORA」トヨタ製。  
水素と酸素を取り込んで、  
化学反応で発生した電気でモ  
ーターを回す。走行中にCO<sub>2</sub>  
や環境負荷物質を排出せず、  
騒音や振動も少ない。市交通  
局によると、従来のディーゼ  
ルバスは、1台当たり年間36  
トのCO<sub>2</sub>を排出しているとい  
う。

横濱産ワカメを使ったあえ  
物がふるまわれたブース

SDGsを経営戦略に取り  
入れるための合同勉強会、第  
2期「SDGs実装セミナー  
」(横浜グリーン購入ネッ  
トワーク主催)が10月24日、  
みなとみらいの富士通エフサ  
スのイノベーション施設で  
開講。10事業者20人が参加し  
た。  
最初に第1期を受講した廃  
棄物処理業「タカヤマ」(埼  
玉県)、同社の社会的使命  
を定義するまでを振り返り、  
現在の取り組み状況などを紹  
介。続いて、富士通エフサス  
のファシリテーターの進行で  
ワークショップを行い、楽し  
みながらSDGsへの理解を  
深めた。

豊田さんは10月6日、タン 岩ほかりの西部劇。頂上周辺  
ザニアの麓から出発した。低 低はクレターのように、スタ  
地は広葉樹の密林でターサン ウォーズ」と道中を映画の  
の世界。背の  
低い杉などが  
続く中腹を抜  
けると、砂れ  
きや赤茶けた

## 氷河が解けてなくなる

温暖化に  
鐘

豊田さんは12  
月11日、キリマ  
ンジャロ登頂報  
告会を関内で開  
く予定だ。  
《次回は27日掲載予定》

氷河は雪以上に真つ白でまばゆかった。だが、土が掘ら  
れた跡やつらが幾筋もあり、明らかに解けていた。冒  
険写真家、NPO法人「海の森・山の森事務局」代表の  
豊田直之さん(60)横浜市港北区Ⅱが10月、アフリカ最高  
峰キリマンジャロ(5895m)に登頂。解ける氷河を目  
の当たりにした。豊田さんは地球温暖化の影響とみえて、  
「想像以上に深刻。私たちは暮らした方を含めてシフトしない  
と手遅れになる」と警鐘を鳴らす。  
(春名 義弘)

氷河縮小の原因は諸説ある  
が、気候変動に伴うものに違  
いはない。豊田さんは「氷河  
が消えるということは、水源  
がなくなるといこと。アフ  
リカは山で規制され持ち込  
むことはできないが、街中に  
はペットボトルがごろごろ転  
がっていた。一方、特別保護  
区のサファリでは全くごみが  
落ちておらず、「管理をきち



「大地の詩 チャリティ  
コンサート」が戸塚区で  
開かれ、ピアニスト西本梨  
江さんが、SDGsにちな  
んで作曲した「だれ一人と  
り残されない世界のため  
に」を初演した。  
なスケールに圧倒された。  
トークショーでは、コー  
ディネーターの加藤タキキ  
さんが、2歳のとき、焼野  
原で転んで出血した際のエ  
ピソードを披露。母シズエ  
さん(元国会議員)はタキ  
さんが泣いても手を貸さ  
ず、起き上がったら抱きし  
めて、こう言ったという。  
「これから先、目や肌の  
色、顔形が違う人たちと出  
会っければ、皆考えてい  
ることが違って当たり前。  
も、けがをすれば同じ色の  
血を流すのよ」  
相手の個性や多様性を認  
め合うことの大切さを、あ  
らためて心に刻んだ。  
「SDGs横浜の挑戦」  
編集長 春名 義弘

冒険写真家 豊田さん キリマンジャロへ

風景に例える。  
頂上に立ち、見渡すと、至  
る所にきれいな氷河。しかし、  
現地ガイドは「約40年前から  
解け始め、4分の1まで減っ  
てしまった」と言う。氷河の  
脇に土が表れ、溝がで、解  
けて流れ出している道筋がい  
くつもあつた。氷河から垂れ  
下がるつららは、解けて滴に  
なったものが、再び凍ったこ  
とを示していた。  
氷河縮小の原因は諸説ある  
が、気候変動に伴うものに違  
いはない。豊田さんは「氷河  
が消えるということは、水源  
がなくなるといこと。アフ  
リカは山で規制され持ち込  
むことはできないが、街中に  
はペットボトルがごろごろ転  
がっていた。一方、特別保護  
区のサファリでは全くごみが  
落ちておらず、「管理をきち

個性や多様性  
認める大切さ  
一人一人の思いやりの心  
が力となってイノベーション  
を起こすさまを、S(En  
ergy)・D(Diversity)の3つの音を  
基本に描き、テノールとソ  
プラノの歌唱も入り、壮大